

平成28年度第2回（第51回）CPDプログラム委員会議事録

日 時：平成28年6月30日（木） 10:00～12:00

場 所：日本工学会会議室

出席者：日比谷啓介委員、上田健之委員、山尾泰委員、宮元均委員、横内喜志男次期委員長
石原直委員長、木村軍司幹事

オブザーバ：広崎膨太郎会長、鈴木忠道様

配布資料

- 資料2-1-1 日本工学会 CPD 協議会役員・委員名簿（H28.6.30）
- 資料2-1-2 日本工学会 CPD 協議会 CPD プログラム委員会構成（H28.6.30）
- 資料2-2 平成28年度第1回（第50回）CPD プログラム委員会議事録（案）
- 資料2-3 平成28年度第1回 CPD 協議会全体会議議事録（案）
- 資料2-4-1 平成27年度事業報告書 抜粋
- 資料2-4-2 平成28年度事業計画書 抜粋
- 資料2-4-3 CPD 活動に関する情報発信強化について
- 資料2-4-4 CPD 活動運用効率化に関するシステムの検討について
- 資料2-5 CPD 運用システム検討委員会 第1回委員会議事録

議事

1. 会議に先立ち、資料2-1-1～2の名簿を参照し、委員長の挨拶と委員及びオブザーバの自己紹介が行われた。また、CPD 協議会副会長の交代に伴い、CPD プログラム委員会の委員長が石原前任副会長から横内喜志男後任副会長に交代することが確認された。

2. 前回議事録の確認

資料2-2の議事録案は異議なく承認された。

但し、第1項に記述されている、OUTLOOKに関して、このところ広報委員会など各種の委員会が立ち上がり、情報共有に関する検討が進められようとしている。今 OUTLOOK を示すと、これらの検討を複雑化する恐れがあるので暫くペンディングにしたい旨、広崎会長からの申し出があり、了承された。

3. 平成28年度第1回 CPD 協議会全体会議の報告

資料2-3及び資料2-4-1～4に基づいて、5月27日(金)に地盤工学会会議室で開催された平成28年度第1回 CPD 協議会全体会議の報告があった。全体会議は、平成28年度第1回 CPD 協議会シンポジウム開催前の午前中に行われた。特にこのうち、CPD プログラム委員会の今年度の活動計画の説明、CPD 広報委員会及び CPD 運用システム検討委員会の立ち上げについて説明があった。CPD 運用システム検討委員会は、CPD プログラム委員会内のワーキンググループ的な性格で、ここでの議論は CPD プログラム委員会へ報告することを確認した。

4. CPD 運用システム検討委員会の報告

資料 2-5 に基づいて、第 1 回 CPD 運用システム検討委員会の報告があった。

この委員会は、『CPD 協議会加盟学協会に提供する共通システムとして「CPD Log Front を用いた新しい CPD 運用システム」を CPD 協議会に導入することに対し、フィージビリティ・スタディを実施する』ことを目的に設立されたものである。

検討した内容は、(1) 委員会役割の確認 ①システム導入の効果に関わる確認（技術的検証）、②新しい CPD 運用システムの継続的な活用に対する保証に関わる確認（システム利用者への継続的なサービス体制に関わる確認）、(2) 運用効率向上に対する効果の再確認、(3) 今後の対応、で構成されている。結論として、今後、いくつかの組織で、CPD 制度を軌道に乗せたい、または CPD 運用の効率化を図るため「CPD Log Front を用いた CPD 運用システム」を活用したいというニーズが湧き上がってきた時点で活動再開を検討することとし、それまでの間、本委員会をいったん閉会したい旨の提案があった。

これに関して、以下の議論があった。

結論を導く前提となる事項に事実誤認があり、また、Web で調べた加盟学協会の状況は、必ずしも最新のものに更新されたものではないため、現状と異なっているものが含まれている。

例えば、昨年度第 6 回の議事録第 5 項には、日本工学会が Log Front システムを構築して、各学協会が利用できるようにしてほしいという要望が出されたことが記述されているにも拘らず、ニーズが湧き上がった時点で活動再開を検討するとなっていて、現在は必要とする学協会がないような認識をしている。

また、今年度電気学会の事業計画には、Log Front が出てこないのも、積極的ではないように認識しているようであるが、電気学会としては、日本工学会が構築するのを待っているのも、事業計画には載せてないとのことである。参加している技術士会の委員からは、このようなシステムが構築されれば、使って見たいという意見も出た。

Log Front システム構築の起こった背景には次のような状況がある。会員は CPD を利用したいが登録が厄介であり、その割にメリットが少ない。学会から見れば、CPD 会員が少ない割に、事務局の手間が掛かるため、費用対効果が悪く、やめるところが出ている。高度成長期には企業が十分な教育をする余裕があったが、これからは学協会が担う方向に向かっている。費用対効果の良い登録システムを探しているときに Log Front システムが出てきたので、日本工学会がリーダーシップをとって Log Front システムを構築して、各学協会が利用できるようにしてもらえないかという要望が出てきた。参加学協会では、日本工学会 CPD 協議会が CPD に役立つことを期待している。これに応えられなければ、CPD 協議会から離れて行くであろう。

以上のような議論から、この件は導入する事を前提に継続審議をすることになった。

次回開催：8月25日(木) 10:00～12:00 日本工学会会議室

以上